



# 太陽と大のなかよし戸沢の子

## 「利他」の心

～他者を思いやる優しい心を育みます。～

校長 村田 紳

夏休みが明けて、子ども達の元気な声が学校に戻ってきました。

「校長先生、ぼく、〇〇の自由研究をしたよ♪」

「わたし、お父さん、お母さんと畑仕事をしたよ♪」

「北海道の厚岸の友達と交流学習したよ♪」

子ども達の夏休みの想いが言葉になって、たくさんあふれてきます。キラキラした目で、笑顔で話す子ども達のなんと素敵なことでしょう。

保護者の皆様、お忙しい中、子ども達と関わっていただき、ありがとうございます。目にはなかなか見えない「心の成長」が確かに感じられました。

戸沢小学校のピロティにツバメが巣を作っています。

去年の巣を壊さずに残していたので、今年も同じようにツバメがやってきて、子育てをする姿が見られました。

子ども達の水泳授業の監視に行くときに、ツバメが低く飛んでいると、「もしかしたら、一雨来るのかな。」などと空を仰ぎました。

雨が降る前には空気中の水分が多くなり、湿度が高まります。ツバメがエサにしている飛翔性昆虫は湿度が高くなると、羽に水分を帯びて羽が重くなるため、低く飛ぶことしかできなくなり、結果、ツバメは低く飛ぶ、雨が降る、と言われるようになったという説があります。

八月に入ると卵から孵化したツバメの子どもたちが、親ツバメに餌をねだる様子がたくさん見られるようになりました。

親はただ一心に子どものツバメのために餌を運びます。繰り返し、繰り返し運びます。

誰から言われるでもなく、誰から褒められるわけでもなく、親ツバメは何の見返りも期待せずに、「子どもの成長のため」に働きます。

そんな親ツバメの尊い姿をみて、「子どもの成長」のために懸命に尽力する学校、教職員集団であらなければと心を引き締めたところです。

ただ、子どもの成長は、学校だけでは、十分引き出せるものではありません。保護者の皆様、地域の方々の協力なしでは達成できないものです。これまで同様、学校教育へのご理解、ご協力をお願いいたします。



夏休み明けの教室から

